

学籍番号：M19AB505
講座名：ワークショップI

氏名：北川 健治
担当教員：高野 恵亮 教授

ワークショップ議事録

都市行政コースシンポ「津軽選挙－その現状と展望」

- 1 日時 2019年（令和元年）7月5日（金） 18時30分～20時15分
- 2 場所 大阪市立大学大学院 梅田サテライト 101号教室
- 3 受講者 大阪市立大学大学院 都市行政コース院生外
- 4 講師 藤本 一美 先生（専修大学名誉教授・日本臨床政治学会理事長）
- 5 司会者 高野 恵亮 教授
- 6 議事録担当者 北川 健治

I 高野 恵亮 教授 開演の冒頭挨拶、藤本 一美 先生の紹介

II 藤本 一美 先生の基調講演

皆さん、今晚は。今高野先生からご紹介がありましたように、本来私はアメリカの政治を研究しておりました。現代アメリカをやっていましたけれど、5年前に専修大学を退職して、故郷の青森県の勉強をしております。

何年かぶりで帰ったんですけれど、いかに自分が青森のことを知らなかったのかを反省しています。皆さんだったら津軽と言っても、何処にあるんだということが分からないと思いますので、ちょっと書いておきますと（ホワイトボードに青森県の略図を）。

本州の最北端でここが青森です。ここが八戸、弘前があります、津軽というのは、こっちの方を指して津軽と言っています。私が生まれたのは、五所川原という所であまり知らないと思う。新幹線は、こういう風に通って北海道に行きますね。こちらが日本海ですから、非常に雪が降ります。寒い所で大変な所です。八戸の方は、南部と言われておまして、どっちかと言うと岩手県の方に近いところです。津軽と南部は仲が良くない、ケンカをしましてね。都会から見ると馬鹿じゃないかと思う。八甲田と言うのがありますね。ここに岩木山という山があります。十和田湖はこの辺にあります。秋田県との県境で、行かれた方もあると思います。昔は青森から函館まで青函連絡船が出ていて、津軽海峡を渡っていったんですけれど。女性歌手の石川さゆりさんが「津軽海峡冬景色」と、言われましたけれど。今では、青森と言うと「ねぶた」ねぶたと言うのをご存知だと思うんですね。五所川原には、「たちねぶた」という20メートル位の物がありますので、一度青森に来て下さい。私の家は未だありますので、何人でも御泊めいたします。宿泊代等は無料です。私はそこで生まれたんですけれど、弘前高校に入ために叔父に預けられて、中学、高校は

弘前です。弘前の方が知っているんですね。友達は弘前の方が多いです。その後に明治大学に入るんですけど、ただ私は高校時代は、応援団、空手部、茶道部とかやっていて、ろくな学生ではなかったんですけど。勉強を全くしなかった。だから大学で勉強する気も無かったし、青森市の松木屋デパートというところに勤めました。ところがそこでは非常に勉強になりましてね。組合運動の中に直ぐに入りまして、まだ昭和37年位でしたから青森銀行がバックにいまして、すぐ執行部になって勉強して松木屋デパートで売り子をやっていますね。課長になって、部長になって何になるんだと考えまして、もう一回やり直そうということで、勉強をしまして明治大学の農学部に行きました。農芸科学をやっておりまして、生物科学とか生化学の最先端のところをいったんですけど、大学闘争にぶつかっちゃって、私が大学で色々暴れまして、学部長を監禁したということでね、無期停学。そうすると農学部にいれなくなって、しょうがないから実践活動でやろうということで、大学では政治学をやりました。アメリカをやりました。何故でアメリカをやったかと言うと、歴史が短いし、覚えること少ないだろうとそれから、英語が全くできなかったから、英語を毎日見るから良いだろうと、それから我々昔は政治学をやっても、イギリスとかドイツ、イタリア、フランスをやるとかアメリカの帝国主義なものを何でやるんだということがありまして、逆にそれが幸いしまして。余りやる人が少なかったんです。今は、アメリカ研究者が非常に多くなったんですけどね。それで幸いいたしまして、私の処女作が「アメリカ近代政党的形成」と、いうので、アメリカは一杯本があるんですけど、まともに日本では書いてなかったの、これで「日米友好基金賞」を、貰いましてね。それから急に勉強をする気になりまして、アメリカの現代をやるようになりまして、古いことをやったんですけど。

国立国会図書館に国会議員のコネで入れさせてもらいまして、古いことじゃなくて現代のことをやれということで、アメリカ政治・議会それから議会・憲法もやりました。皆さんは、行政学とか行政法をやっている方も多いと思いますけれど、政治学者になるには憲法が一番良いですね。それは、勉強の基礎です。何故かと言うと、人権、統治機構を全部やりますから。憲法なんかして、どうなるんかと思いましたが、後で非常に役立ちまして、日本には大統領みたいに首相公選論は憲法上できないんですね。ですから非常に勉強になりまして、そういう形でずっとアメリカの研究をしてきたんですけど、若い奴が出てきまして、もう良いだろうということで、故郷の五所川原に戻りまして、最近、戦後の青森県の勉強をしまして、毎年のように本を出しています。一つはボケないように、それから朝から酒飲まないようにですね。別なところにシェアハウスを借りまして、勉強をしています。その方が女房も喜ぶですね。朝から晩まで煩いと昼間から酒を飲んでるんじゃないかと言われてまして、勉強をしています。

今日話す「津軽選挙—その実態と課題」と言うことです。大体その津軽と言うと今日の話は、良い話だろうと、例えば岩木山があって十和田湖も近いし、太宰 治も生まれたし、葛西 善蔵とかいてプラスの話ではなくて、今日はマイナスの話です。何故かと言うと、

津軽選挙と言うと聞いたことは無いと思うんですけど、非常に有名になりました。何故かと言いますと、選挙の時にですね、一つは選挙管理委員会も巻き込んで、不正な方法で町長になったとか、それから投票場に殴り込みをかけてめちゃくちゃにしたとか、町長が二人出たとか、とんでもない話になってきたんです。今も平川市というのがありますが、市議員がですね、市長選挙に絡んで、20人いる内15人が逮捕された。とんでもない話。今でも日本一選挙違反が多いところです。私が津軽選挙の専門家じゃありませんで「津軽選挙－地方政治における権力の構造」（高橋 興著 北の街社 1987年）、「青森県の政治風土」（木村 良一著 北方新社 1997年）という話です。ただ私は青森県の戦後の初代民選知事の津島 文治さんの勉強をしまして、その中で、彼が大変な人であった。同時に青森県の津軽選挙の基を作った人は、津島さんじゃないのかということに気がつきまして。その中で、津軽選挙にも目を配るようになった次第です。レジメに沿ってお話していきましょう。

本州最北端の青森県の津軽の場所は、お分かりになったと思います。首長選挙で不正行為が多発。選挙違反日本一。なぜ首長、市長や町長かと言うと、利権がらみなんです。後の市議員、県議員、国会議員というのは、何百人の中の一人であって、大した力がないし、口利き料で国会議員が時々問題になることがあるけれど、県とか市とか町村で利権があるのは首長です。その選挙で不正が起きているのが実態です。選挙の意味は政治学の立場で言うと「政治参加と指導者選出及び意思表示」だと言う風に言っておりますけれど、教科書的に言えば、有権者にとって各自が政治に参加すると言う、平等に与えられた権利の行使を政治参加と言ってますし、政治指導者の選出、指導者選出、その他指導者や政党が提示する政策の幅の選出、意思表示であると言うことであります。

問題なのは、津軽選挙とは何かと言うのは、ここで言う首長選挙で選挙管理委員会を巻き込み、既存の法律体系や選挙制度を無視した不正な選挙。選挙での不正と言うのは、青森の津軽だけではありませんね。大阪でも恐らくある。例えば不在者投票を上手く利用したり、飲み食いさせたりお金を貰ったり、これは全国的であります。アメリカでもありますし、イギリスでもありました。村を全部買収してしまった。イギリスでは、今から200年前に腐敗防止法を作ったんですね。今では選挙違反というのは無くなったと表向きには言っています。アメリカは日本と変わりません。日本の場合私が今いる千葉県でも、朝起きたら玄関に一万円札があって、何々候補をお願いしますと言うことで、飲み食いをさせて貰ったということもある。津軽選挙の酷いところは、選挙管理委員会を自分の派で占めて、選挙に負けそうになると立ち会いを止めて、文句を言って選管を訴えて、ひっくり返してしまうという。とんでもない話ですね。結論的に何故、津軽にそんな奴が多いのか。これは後で説明しますが、結論を言ってしまうと、津軽選挙の実態・解釈というところで、社会的構成体というのを造っている。この辺は、昔は稲国の津軽平野と言って米が取れるんですけど、沼地だったんです。津軽藩は表向きは、5万石なんですけれど、裏では10万石の米が取れる。ここに米を作る田んぼを造るときにですね。全国から色々な人を集めてきた。次男坊、三男坊それから浮浪者も3年間は食料とか建物とかお金をあげるからやって

くれと。所謂自然村では無いんですね。行政村を無理に作っている。大体農家の次男坊・三男坊、浮浪者を集めてくる訳ですから、お互いが信用しない。お上のことも信用しない。そういう人達がいる、行政村があって新田開発のために全国から貧民を集めると。未だにそういう人が多いわけですし、後で言いますけれど、経済的要因だから津軽選挙だって言いますけれど、南部は景気が良いかと言えば、やっぱり貧しいところなんですね。何故津軽だけそういう変な選挙をやるのかと、投票所に踏み込んで燃やしたり選挙立会人を殴ったり、二人の町長を出したり。皆さんそれぞれ書いているんですけど、私が参考文献に書いた「津軽選挙に関する一考察」では、そこまで踏み込みました。それからその実態を知って何になるのかと言う。全国津々浦々にも同じことがあって、今度参議院選挙が7月21日にありますけれど、不正なんてあるんじゃないのか、問題は政治学、行政学、行政法、憲法もそうなんですけれど、それをどうやって無くすのかと言うことが大事ですよ。悪いところに行くって言うのは、幾らでもできます。私の大先輩で鎌田 慧さんという方がいらっしゃって、ご存知だと思いますけれど六ヶ所村のことですね。あそこは、日本の原子力発電所から出た廃棄物の中間貯蔵庫と言っていますけれど、全部引き受けてくれと。全国の原子力発電所のゴミを、ここに持ってくるんですけどね。それを暴いたのですが、問題はそれを暴いたから、次はそれをさせないためにどうすれば良いのかと言うのがなければ、政治家から言わせると学者の戯言じゃないかと。私は先に結論を言ってしまいますと、終わりのところで、不正防止の処方箋と書いておきました。これで上手く選挙違反が無くなるとは思いません。但し、そこに5つ挙げておきました。

1点目は、首長選挙への立候補の制限。アメリカでは憲法で3選禁止というのがありますよね。アメリカは建国以来、2期8年で辞めるという慣習が出たのですが、フランクリン・ルーズベルトの時に大恐慌と第2次世界大戦ということで、4選になったわけですね。ところが、どんなにフランクリン・ルーズベルトが良い人であっても、同じ人でずっと同じ地位にいて良いのかという。アメリカは、独立する際に、イギリスの国王制度に反対してやったわけですから、矛盾があるわけですね。それで3選禁止と。それから、アメリカの州の知事も多選禁止と一杯やっています。それはおかしいと。今の青森の知事をやっている三村さんというのがいるんですけど、この前の5月の選挙で5回目の当選なんですね。とんでもない、5期やると20年やっている訳で、今はその本を書いているんですけどね。やっつけようと思ってね、なんだと。そんなにやってやれるのかと。子どもが生まれて、20年経つともう大人になるじゃないかと。その人はお父さんもお爺さんも県会議員で、やっぱり長くやっているんですね。それで多選禁止を煩くいかないといけない。

2点目は、連座制の拡大。これは法律をやった方は知っていると思いますが、本人だけじゃなくて会計責任者とかなんかを不正なことをやったら公民権を永久に停止するというのを、もっと強化すべきだと。一生公民権を停止する位強くやらないと甘くなってしまう。それから、後で述べますけれど、選挙違反をやって裁判になっても、3年か4年経ってから、結論が出てくる。そうすると3年・4年やっている間に、次の選挙が終わっちゃ

うわけですね。それで100日裁判で早期に判決を下すというのを もっと強化すべきだと思う。

3点目は、事前運動。今はもう昨日あたりから、参議院選挙の候補者が言ってますね。青森県では、選挙になると仕事を辞めて、あっちこちの候補者の所に行って飲み食いをしている。お祭りだと思っているんですね。こちらも大阪の近くでも、全く無いわけではなくて、選挙が近づくと、急に仕事を辞めてですね、選挙運動に走っているおじさんがいるわけですね。それは寿司を取ってくれるし、ウナギを食べさせてくれるし、酒も飲めると。下手な人はお金を貰って、それをあっちこち回っている酷い人が、いないわけではない。そう言うこと事前運動をもっと厳しく取り締まらないといけない。選挙違反をやっ出てきたら威張ってますね。「私は、選挙違反をしたけれど、あれは犯罪ではない」とんでもないですよ。それから、刑罰が甘い。初犯だと執行猶予で直ぐ威張ってやっている。これもそうじゃなくて、刑務所に入っただくと、実刑で3年なら3年入ってもらいと、それくらい厳しくやらないと甘くなっちゃうし、それをもっとキャンペーンしないと明るい選挙という話も全く効果がないですよ。町や村でもやっているけれど、何をやっているのか。もっと法的に厳しくやらない限り、甘くなって選挙違反なんて犯罪じゃないというような、心構え自体がおかしい。今日の「はじめに－問題の所在」というところで後ろのところ話しましたがけれど、はじめにのところで青森県の初代民選知事の津島 文治。これが、津軽選挙の原型（プロトタイプ）だと言われています。それも話します。

それから、不正防止の処方箋は、話しましたがけれど。それから言い忘れましたけれど、社会科「教育」の実践。実は皆さん小学校、中学校、高校で習ったんですけど、現代迄きてませんよね、日本史も世界史も、日本史ではせいぜい明治・大正で終わっている。世界史も第1次世界大戦で終わっている。大事なものは、その後現代の日本、世界中の国々がどういう状況になっているのかを全く説明していない、教えない。そこを価値判断を先生も避けている。そうじゃなくて、私は大学では現代史を教えている。アメリカ政治とか日本政治とかやつてましたから、それも戦後そしてなるべく今の安倍政権も含めて、何故1党支配が続いているのかと言うところから入って行って、本当に学生が聞きたい話をする。学者というのは、古いところをやって、そこを大事にして自分の専門を引っ張って煙に巻いて訳の分からない話をしているところもあるんですが。そうじゃなくて学生と先生と小学生、中学生を含めて話ができるような整理をやって、大人になって急に選挙違反が駄目ですではなくて、小学生、中学生、高校生からアメリカのように議会に連れて行って首長さん市長さんが会ってあげて、模擬選挙をするべきであって、市議会議員や県議会議員、国会議員は大体暇なんですから、もうちょっと小学校、中学校、高校へ行ってですね、社会科教育をしてあげる。鉄は熱いうちに打たないといけない。良い年になってから、幾らやっても、もう社会構造にビルトインされたら、会社に行って「お前あいつに選挙の時に入れろ」と言われても、嫌だと言って酒飲ませても、嫌だと言ったら、仕事でいじめにあうからじゃなくて、その前からちゃんと教えておく。20歳を過ぎてから、急に誰に選挙

に入れると言われても困るわけです。そうじゃなくて自民党のこの政権はおかしい。安倍政権も何時までやっているんだと。外交上全く成果が上がらないじゃないかと。ロシアに行った何をしているのかと。ましてや拉致問題なんて一切片付いてないじゃないかと。最近ではトランプが日米安保条約を破棄しろと。私は破棄論者です。私の政治立場を言いますと、日米安保条約を破棄して、沖縄の問題を日本の全体の問題として取り上げる。アメリカはどうするかと言うと、日米友好条約を結べば良いじゃないですか。何もケンカをしないで、そして自衛隊を強化する。自分の国は自分で守る。

次は問題あるかな。私は天皇制も反対です。天皇個人は全く嫌いじゃありません。大正天皇、昭和天皇、平成天皇、良い人だと思います。但し、制度としておかしいと思う。世界中に王政なんて無くなっている。皆んな共和制になっている。アジアであるのはタイだけです。中国だって韓国だってロシアだって止めた。天皇個人は全く批判しない。制度としておかしい。そしてもう一つ私の政治的な立場としては、なぜ青森県の六ヶ所村だけに、原子力発電所の核廃棄物を置くんだと、トイレじゃないと。自分のところは自分でやりなさい。安全だと言うなら自分の所の原子力発電所の自治体の所で処理をしないとイケない。三村知事さんの偉いところは、最終処分地にはしない。私もそう思います。原子力発電だけにこだわることはないと思います。風力発電とか水力発電とかを進めて、あんな危険なものは早く止めた方が良いでしょう。ただ我々は30年位あんな危険だと思いませんでした。なかなか安全だから日本は、そんなこと無いと思っていたら、大地震が来て福島があんなになってしまったのですから、私はすぐ無くすべきだと思います。但し、日本に50基も原子力発電所もあると思いませんでした。10基位はあると思っていましたが、海外でも被曝の問題があったが、我々の問題だと思っていなかった。私も甘かったし日本人全員そうだったんじゃないですか。あの事件が無かったら今でも原子力発電所を作り続けている。現に大間とかに発電所を作っている。函館なんかは、とんでもないと言ってますが。

そこで、一度、おわりにののところを先にお話ししました。次に津島 文治さんがどういう人か誰も知らないと思います。但し、太宰 治の兄貴と言うと分かりますよね。太宰さんは、有名な人だけど。ただ私は太宰 治は大嫌いですよ。あの人は良いものを書いたけれど、女子と自殺をして、女子だけが死んで、自分は生き返ったりしてね、結婚してからも愛人を作るのは良いとは言いませんけど、それで死んでいる。残された人はどう思うんですか。僕は、高校生や大学生にあいつの真似はするなと。どんなに良いものを書いても人間の恥になることや自殺未遂とか自殺とか39歳で死にましたけれど、才能はあります。「津軽」と言う小説を書いて。私は小説家にはなりません。あんな風にとんでもないと。津島 文治さんはどんな人かと言うと、「斜陽館」こちら金木に行って見た人はご存知だと思いますが良いところですね。そこで選挙資金が無くて、売ってしまいました。僕は偉いと思うのは、名望家と言うのは地方の偉い人ですけど、井戸堀政治家というのは、選挙で金が無くなって家を売っちゃって井戸と堀しかないという昔の例えです。但し、その人は良い人で。金丸さんとかは、金丸御殿なんか言って、選挙のたびに金を儲けていて、

ビルとかマンションを買っているじゃないですか。政治で金を取るなんてとんでもない話じゃないですか。それもやはり言うておかないといけないし、それから最近の政治家は、すべて職業政治家となって、全てステーツマンがいなくなってしまった。将来に対する政権の見通しを持っている人達がステーツマンです。参議院議員でもステーツマンに当たる人がいるかと言うと私は残念ながらいない。全部が悪いとは言わないが、大体99パーセントが口利き料で儲けているのであって、国会議員も市議会議員も県議会議員も皆んな悪い人ばかり。ただ全部ではないです。勉強している人はいます。大体そういう人が多い。お爺さんとお父さんも議員でした。お父さんは衆議院議員、三男坊でしたけれど、兄たちが死んだものなので25歳で家督を継いで、早稲田大学の政経学部を出ています。戦前は金木町の町長、県議会議員も務めました。これは全部親の金とバックですね。問題なのは、後で詳しく述べますが。衆議院議員当選辞退。選挙違反で捕まって、偉かったのは彼は裁判でちゃんとなるまで、国会議員を務めていたんだけど、仲間が逮捕されて自分だけ生き延びるのはおかしいじゃないか、自分は若いからということで辞めたんです。普通はそういうことをしませんね。せつかく受かったんだから、次の選挙まで裁判で頑張っているうちに、次の解散総選挙があると思っているんですけど、そこは偉いと思いますけれど、とにかく彼が津軽選挙のプロトタイプだと呼ばれていますけれど、それは後で説明します。戦後、また、衆議院議員になって知事になって、また、知事を辞めた後に衆議院議員と参議院議員を務めているんですね。とんでもない者ですね。勝率は12勝1敗で1回だけ後でお話しますが、衆議院選挙に負けています。この時は津軽の南部で工業専門学校誘致を巡って争ったんですね。ところがこれがあんまり争うものだから、文部省が認めなかった。そういうのがあって彼が衆議院議員であって何をやっているんだということで落選しました。後は全部受かっています。彼は選挙が飯よりも好きで選挙のプロだということです。当時の池田 勇人首相の直系で宏池会に所属をしている。なんと娘婿は、田沢 吉郎、娘を田沢 吉郎さんというところに嫁がせて、この人は衆議院議員で色々な役職と大臣などを経験して、今でも津軽では津島という名前で看板でやっている人は一杯いるんです。それだけ、すごくて津島 雄二さん、津島 恭一さん、津島 淳さん皆んな「津島家」の看板を利用している。今はそういう時代じゃないですよ。確かに津島さんのお爺さん、津島 文治さんは偉かったかもしれないけれど、まだまだ青森はそこで遅れて、津軽といった方が良いかもしれませんが、昔の名前で出ていますって「小林 旭の歌」もありますけれど。昔の名前でそして看板。これは選挙に出る人からすると楽なんですね。何故かと言うと名前が売れている。そして支援者もそれで納得をすると、選挙資金も集まり易いということがあるんですけど、そんな選挙ばかり続いたら新しい人が出てこれない。さっき言ったように、素人でも政治はやれると、そして公職者が変わっていくのが民主主義ではないかと、では何故今の三村知事さんも変わらないでやるというのか。それは私も考えたんですね。私も臨床政治学会の理事長を十何年位やって5期・6期とやっているんですが、人を変えちゃうと今迄の体制が崩れてしまう。無駄ですね。全体から見ると、

その本人だと言うことを聞くけれど、新しい人だと言うことを聞かない。それから臨床政治学会で同じ高野先生がこっちに呼んでくれるということがある訳で、そういうメリットがあるから5選知事を責められないね。自分のことがあると。何故やるのかというと。それも考えて自分の身になったら、一方的に攻めるだけではなくて、何故辞めないのかと言うのが政治学の正しい方法じゃないかと思います。文治さんは参議院議員の在職中の1973年5月6日肺炎で75歳の時に死去。私も75歳だから危ないかもと思っているんですけど、身体は気を付けています。朝は1時間半、5時半に起きて、歩いて、そして戻ってきたら、風呂に入って、ご飯を食べて、ひと眠りをしてから、シェアハウスの所に行って勉強をしている。1週間に1度は、プールに行って、先ず500やって300、200をやって、1月に1度は、スキューバダイビングをやっている。それで健康は保っている。それで、お酒は毎日飲んでいる。日曜日には朝から飲んでいる。人のことは責められないけれど、唯一良かったのは、学者になって何が良かったと言うと、定年になって歳を取ってもやることがある。普通70歳過ぎたら勉強をしないでしょ。ところがカントは言ったんですね「70からが本番だと、80」それがあると、生きていけるし健康を保たないと勉強できません。腹が痛くて頭が痛い時に勉強はできないのは皆さんも同じじゃないですか。先ず健康第一です。勉強するためには、そのためには先ず体力。それがなければ頭は動かないということです。津島 文治さんは身体が弱くて、しょっちゅう公務を休んでいましたけれど。あの人はバカ殿様ですから、良いものを食べているから大丈夫だったんですけど。

3の「津島文治と選挙運動」の話です。1927年に県議会選挙に出て、地主ですから周りに多くの小作人がいるわけです。それだけで、半分くらい取っちゃう。それで、お父さん、お爺さんも、議員だったから、津島家と言うだけで家督を継げるだけで通ってしまうということです。当選第1位です。

彼が偉いところはね、次に選挙に出るときに、民政党の親分たちが、津島さんが支部長になってくれと。あなたがいたら黙っていても自分たちの党派が受かると言うのでね。そんなことは嫌だと言って、辞めちゃうんですね。でも直ぐまた、戻ってきて、1位で当選します。問題は1937年4月に今度は衆議院選挙に出る。市議会議員をやったら、次は県議会選挙に出る。何期かやったら県議員も衆議院に出たいと。国政に行きたいと。彼はお父さんが衆議院議員だったし、貴族院議員であったので、出るわけなんですけど。選挙では、11, 138票を取って2位で受かりました挙違反者による摘発。三武小便事件というのは何かと言うと、五所川原に料亭がありまして、料亭の2階からおしっこをしたらかかったと、調べたらその人が村長だったんですね。調べたら沢山のお金が出てきた。それは何だと言われたら、津島家から持ってきた金だというのがばれて津島 文治自身も引っ張られて、留置場から県議員を辞めると、それから衆議院議員も辞めると。ちょうどあの頃は、粛清選挙運動がありまして、その流れに沿ったんですね。ここまでは立派なんですけど、じゃあこの間にお金を使っていないかと言うと、1回目も2回目も県議選も銀

行に行って50銭を全員に配っている。戦後はですね、知事選の時にもばらまいている。ですから私が津島 文治さんが津軽選挙のプロトタイプと言っているのはそこですね。さっき言ったように、「斜陽館」を売ってまで金を集めてばら播いて食わして、未だに青森県特に津軽の人。日本人もそうですけど、選挙になるとウキウキして、今まで食べなかった寿司、ウナギを食わしてくれて一杯飲まして、それは人間の感覚それが身体に訴えるんですね。

そして、人の悪口を言ってばんばん飲める、特に青森とか何にも無い所にとっては、お祭りなんですね。それで参加して自分たちの支持する奴が市長とか町長とか、それでその仕事を全部自分達で貰ってしまう。だから青森県なんて、私が何で東京に出てきたかと言うと就職をするところが無い。高校出て大学出てやるのは県庁かあとは教師ですね。後は市役所とか町とか村の役場がどうかと言うと、選挙で受かれば負けた方を全部出してしまう。自分たちの一派で占めて自分たちの者を入れ、だから生活がかかっている。するとやはり一生懸命になるわけですね。もう一つ言っておきますけれど投票率の問題があります。またも下がったと、戦後ずっとどこでも下がっている。国会議員、知事選挙どこでも下がっている。参議院選挙でも、それから県議、市長。昔は、80%から90%が普通で、95%とかおかしいと、選挙に行きたくない人もいるわけですよ。社会主義国は99%。あれは動員しているからです。それから昔は、楽しみが無いものだから、選挙行くのが楽しみなんです。私は投票率が高いと言うことは、それだけ政治が問題になっているんじゃないくて、逆に今みたいに投票をしないと言うことは、平和な時で他に一杯楽しいことがある訳なんです。若い人達に言っても、誰が当選しても同じで、言っていることが同じで、公約で良いことを言っているけれど、実際はそんなものをちゃんと実践している者がいるのかと、そうすると人のことを言えないわけでしょう。逆に私はこの前選挙公約でこれが実現しました、なんてだれも言いませんね。なんせ、失敗をして知らんふりをしているんだから。だからそこいらも政治学者として考えていかなければいけないと思いますけれど、三武小便事件というのはそういうもんでして、そして戦後、私は1944年生まれで戦前生まれですけど、そうは言っても若い人は何も興味ないでしょうですけど、戦後だって1967年とか1971年の話で興味がないかもしれませんけれど。さらっと言ってしまうと、衆議院議員に出て全県1区。昔は全県1区で1回だけ行われた。今は小選挙区制で3つに分かれていますね。小選挙区比例代表並立制になっていますね。中選挙区制というのは、一つの選挙区で3人から4人が受かるということは、2位、3位、4位まで受かるわけですね。今は安倍さんが強いのは、一時は民主党にやられましてね。要は1対1で10票対9票で、10票が勝って、9票が死に票になってしまうんですね。比例で救うからといっても問題があって、今の選挙制度は政治学者が考えたんですけど、大変問題だと思います。ただ選挙制度というのは、どういう制度でも良いものはない。理想的なもの、比例ですね。投票に応じてやるという。小選挙区制の場合は1票でも勝つ。ところが比例になると政党が一杯できてしまって、落ち着かなくなる。イタリアとかフランスと

かはそうです。小選挙区制になると、小選挙区ばかりやっていると、日本の安倍一強時代になってしまってしまう。逆に風が吹くと民主党政権も勝ちましたけどね。あれは一回ぼっきりで10年迄は、駄目になってしまうんですね。イギリスでも労働党がもう一回できるまでに12年かかりましたから。民主党かつての民主党今の立憲や国民の幹部には言ってます。玉木さんにも言いました。10年頑張れと。それから野党が分裂したら絶対駄目でしょう。問題にならない。だから今度解散総選挙でも負けないし、今回は参議院では憲法改正の為に3分の2が必要だと言うけれど、安倍さんはやる気は無いですよ。何故なら安倍さんは皆さんが知っているように憲法改正なくても安全保障政策でやりたいことは全部やっているじゃないですか。解釈で何でもできる。ただ彼の支持基盤である保守層をなだめる為に憲法を改正すると、できっこなんてないし。やる必要さえない。無駄だ私はそう思う。私はそう思っていて、皆んながそう思っているのかは分かりませんが。それから1947年の県知事選では民主党公認で金権政治です。この後は使っていません。何故かといえば戦後だし市民が少ないこともあるし、2期、3期になるともう安全パイですね。特に知事選なんかは。何故かと言うと挑戦者側が全県的な大きな争点が無ければ攻められない。1期、2期しているうちに利害行動、そして自分たちの味方を全部取りまとめて、包括してしまうから野党が勝てないんですね。それからずっと無所属でいて3回出るんですけど、問題は1963年に次点で落選、後は全部勝っている。僕がちょっと気になるのは、彼の立場ですね。知事をやって衆議院議員をやって参議院議員。一体何で自分だけ一人でやるんだ。だから津島さんを考えてみると、大学を出て直ぐ戻ってきて町長をやっているんですね。昔町長というのは選挙ではなく議会の中に多数派の賛成があればなれたんですけれど。つまり他のことをしていない。だから選挙しか知らない。それと選挙の味を知っている。ですから政治家の息子や孫たちが政治家をやるということは、やはり旨みを知っている訳です。今は井戸堀政治家なんかはいなくて、県会議員でも私の知り合いでも、2期か3期してマンションを買ったとかと言うことは県会議員になっても年間1千万以上貰っている。4年間で4千万です。それを盾にして戦う。私の知り合いでも、2期8年を冷や飯食ったけれど、今度の選挙で受かりましたけれどね。喜んじゃって借金を全部返せると。とんでもないことだね。そのためにやっているのかと。8割方はそうですよ。ただ、県会議員、市議会議員、国会議員の為に言っておきますと、ちゃんと真面目に勉強をして安倍一強ではいけない。それから日本の色々な問題。例えば、少子化問題をどうするかとかやっています。ただ悪い人の方が目立つんですね。良い人は目立たない。悪い奴は直ぐに分かりますけれど、良いことはなかなか通用していかない。それは歳を取った方はご存知だと思いますけれど、だれど誰かが見ている。僕もちゃんとしたものを書かないといけないし、選挙でもちゃんとした公約をやっている人も、実現したと言うことを言わなければいけないと言っています。

4の津軽選挙の実態・解釈ですけれど、ここは詳しく述べません。詳しく述べますと、津軽はそんなに酷い所かと誰も行かなくなっちゃう。ただ言っとくことは、金木町長選挙（開

票不正事件)の時には、やはり選挙管理委員会の選挙長を自分の方に持ってきて、一旦負けたのに、ひっくり返した。町の選管と県の選管に訴えて、色々な不正なことがあって、酷い話は花田さんというのがいて、ずっと町長をやっていた。それに挑戦したのが津島 文治さんの弟の英二さんです。英二さんが負けたんですね。ところが訴えてひっくり返った。ところが、花田さんが本当は町長になるのに、なぜ英二さんが何故なったのかというと、その間に裁判をしたんです。3年半して津島さんが、おかしいとなって、花田さんが当選したけれど。その間待っている間に花田さんが県議会議員に出て受かったんですね。最高裁の判決が出て、あと半年やれると言えるけれど、そこで今さらやってもしょうがない。と言うことは、酷いことは花田さんが負けて裁判で駄目なのに、3年、4年結局町長をやったと。そんなばかな話がありますか。これは津軽選挙の最大で最たるものです。そんなの全国には無いですよ。それから、二人町長事件(鯨ヶ沢町長選挙・二人町長事件)。これも酷いですね。初めにある人が受かった、異議申し立てを行った。その受かった人に当選証書をあげた訳ですね。ところが敵対する陣営が異議申し立てで票を数えたらおかしかった。別の人にも当選証書をあげた。県の方にも皆んなが文句を言うんですけどね、二人にあげちゃって、全部のマスコミがこうなっちゃった。今度は、4月から町長が変わって二人来るんじゃないかと、片方はさすがに来なかったですけど。そういう馬鹿なことがあった。もっと酷いのは、1975年(中里町長選挙・開票所乱入事件)私から言うるとつい最近なんですけど、開票をやっていました。選管が発表をしました。ところが、前の投票率が違うということで、ちょっと訂正したんですね。そしたら、もう一回、数え直せということで中学校の体育館の所で、開票をしたんですけど、皆んな見ているんですね。そのうち、2、3人の人が入って行って、それを警察官が止めようとしたら殴って、それを機会に500人いた人が全部入ってきてひっくり返した。選挙管理委員長とか殴っちゃってという話ですね。これはとんでもない話。

こういう風な津軽選挙についてどういう解釈があるのか、これは単純な解釈は津軽は貧しい。今でも青森県は、沖縄の次に貧しい大学進学率が低いですね。それから、医者、それから、収入も沖縄以外で最低です。今の三村さんが頑張っていますけれども、その中で日本から集まった核廃棄物の中間貯蔵庫であって、永久に処理しろなんてとんでもないことですね。ですから青森県は寂しくて何にも無いところ。唯一あるのは、十和田湖、岩木山、ねぶた、それだけであとは何にも無いところ。この八月に「ねぶたまつり」がありますけれども、その後は何にも無い。冬過ごして春に桜祭りがある位であとは、何にも無い。だから選挙はあの人達にとって、私もそうでしたけれどお祭りでした。それが一番の解釈として正しいと思うんですけど。経済的要因としては、経済的貧困、首長選挙に勝利し、役職・経済的利権独占をすると、これは誰しもが考えること。だけど何故、八戸は貧しいけれどそういうことにならないのか、他の県だってそういうことがある訳ではない。次に考えたのは、津軽人の気質だと。争いごとを好み、他人の足を引張るのが好きだと。それから、馬鹿騒ぎ、選挙の時に金、酒、食事にあつくと。ただそれじゃ

あ寂しい話だし、選挙不正をそれだけの理由でやるのかと、私は考えて頭を使って考えたんですけど、津軽の弘前と言えば、城下町がある。誰も住まない。何も無く貧しく新田開発のため全国から貧民を集めてきて、3年間を保証してやってきた。他の良いところ、山梨県なんかでは、昔から自然村があって、コミュニティができていますね。青森では、そういう自然村ではないから、どこの馬の骨か分からないから。能登半島から来たやつとか犯罪者がいたりしてですから疑いが知らないし、あいつの足を引っ張ってやるとか、選挙で負けないとか。私は社会的公正観。それとちょっと分かりにくいことがあるんですけど、私はそういう風に思っています。もっと詳しい話を知りたいければ、「青森県の初代民選知事：津島文治－井戸堀政治家の歩み－」というのをご覧になって下さい。

終わりにのところは、不正防止の処方箋について言いました。どの方法もなかなか難しいんですね。米国のように大統領3選禁止と言うのは憲法ないしは、公職選挙法で、盛り込めるのか。先ず、自民党は反対すると思う。何期受かろうと、それは権利ではないかと。確かにそう言うのも一理あります。行政学者とか行政法の専門家に聞きたいのですが、アメリカでもできたのに、日本で何故できないのかと言うのがある。それから公民権永久停止、これは割とできると思うんですね。連座制を強化して、会計責任者でなくても運動員が不正をしたら、候補者自身に厳しく跳ね返るということを厳しくやっていますけれど、まだまだ甘い。選挙違反の裁判も早くやるべきだと思う。先ほど話した花田さんのように3年半になってようやく最高裁になっていたら、次の選挙始まってしまう。それから運動員の待遇向上で事前運動の取り締まりと言うのもあるんですけど、私はやはり社会科教育を実践して、もっと子どもの時から、政治とは何かとか、日教組の方々は反対だと思うんですけど、価値観の価値を押し付けてはいけないと言うけれど、正しい価値でないかは子供に判断させれば良い。現代史とか教えないと社会に出てから困ってしまうじゃないですか。急に18歳で選挙に行けて言われたって。何のために行くのか。会社に勤めていて課長が言ったとか、そういう問題じゃないんです。自分で考える力を身に着けないといけない。そのためには、日ごろから、議会に行ったり、市長が来てみたり、議員が来てみたりして、現代史を教えることが遅いようで早道であると思う。不正防止の処方箋で良いアイデアがあれば教えてください。

講義は以上です。

Ⅲ 質疑応答 (Q & A)

(Q : Question (院生)、 A : Answer (藤本先生))

Q1 お話の中で、先生が嫌いと言われた津島 文治さんについて、もう少しお伺いしたくて、そもそも家柄が良くて名前が売れているので、当選しやすいと言うのはそうだと思うんですけど。それと人間的な魅力があって、それで人気があったということなのですが、選挙のプロとしての側面をもう少し教えてください。

A あんまり遠慮をして言わなかったですが、津島 文治さんが、ただお父さんやお爺さんの遺産だけではありません。彼は清廉潔白で選挙で金を貯めるということはしませんでした。そして優しい人です。太宰 治の奥さんが、青森に帰ってきた時に子供たちのために助けるとかそういう優しい側面もあります。それは周りは何故彼についていったのか、それはただただ金をばらまいて、議員になって女の一人や二人を作るとか妾がいるのが当たり前だというのが昔はありまして、そういう意味で、身は清廉潔白である。それから、先ほど言いましたように、選挙で違反があった時に自らが辞退するという事は、この頃はセンセーショナルなことであったんですよ。だからそういうことが、県民に広まっているし、町長時代も県議、知事時代も名知事だと言われたのは、貧しい地域に行って良いマンションなんかに入らないで、職員を切って県の体制を立て直す。その時に青森だとリンゴだと皆さん頭の中に浮かぶと思う。戦後間もない時にリンゴ税というのがあって、それで1億円か2億円位入ってきた。ところがリンゴ税というのは、国内税じゃないのかというのか、梨作るとかブドウ作るとかでも認められない。3、4年、彼自身が作ったわけではないけれど上手くやって、そういう功績があって、青森県だけ戦後何年も赤字団体に落ちなかった。ですから、あなたが言われましたように選挙でお金も使いました。だけど人徳があった綺麗だということ。戦後になると太宰 治の兄だということがあって、だけど彼自身は、本にも書いておきましたけれど、一切弟について言わなかった。何故かと言うと、先程言ったように女性と自殺未遂をして、女性だけが死んでしまう。結婚した後もそういうことを繰り返すので太宰 治のことを一切言わなかったんだけど。やっぱり金木町に旅行に行かれた方は、分かると思うんですけど、太宰・太宰ですね。だから太宰治と正反対な清廉潔白さが県民にとって良かったと。後は大変な努力家です。あの頃は青森では何にも無かったですけれど、鶏を作って、ウサギ、ブタ、彼は五所川原農学校を出ていますからね。そういうところが、身近に見ている人から見て、人物としても立派だと。彼は身体があまり丈夫ではなくて、戦争に行っていないんですね。それが申し訳ないというんですけどね。息子が良いこと言っている、お爺さんの代からお金を儲けて、それは小作人から全部集めたお金でしょう。それを選挙で使ったのはもう一回戻したんじゃないかと、それは息子が、親父を誉めすぎですけどね。そういう面が無いわけではない。普通だったら、家の3軒くらい持って愛人も3人くらい持ってね、それで良い車を持ってとなる。それを抑えて県民は何を求めているのか、自分はお坊ちゃんであるんだけど、ちゃんと県民のために働いた姿を見せたことが、やはり明治の誉れがあったし、その内にお金を使わなくても受かるようになったのではないかというのがそう言うところです。

Q2 平川市でも最近政治違反で半分ぐらい捕まった。トータルとして、今はまだましになってきたのか、未だまああまのような状態が続いているのか？

もう一つ、不思議だったんですが選挙管理委員会を巻き込んでという話があったが、選挙管理委員長は公務員で、身分保証もされているので辞めることはないと思うが、何故選

挙管理委員会が巻き込まれることが不思議であるですが？

A 現状も選挙違反は、酷い状況ですけども、平川市の選挙は、津軽選挙ではないんです。と言うのは選管を巻き込んだ訳ではないですし、何か選挙違反があると、全部津軽選挙と言います。昔があまりにも酷かったのが、それが最大の答えです。今は昔から見ると無くなっているんですけど、裏ではまだ酷いです。但し、選挙管理委員長を自分の派で出して、直ぐに辞めさせると言うようなことはやりません。だからもう一つの答えですけど、確かに公務員ですけど、それは直ぐに代えられるんですよ。ずっとやっているわけではなくて、4年毎に任期があるのと同時に、異議申し立てて、あの選挙管理委員長では、やっていけないと、実際に文句を言って変えているんですね。そして、自分の派閥の息のかかったやつを入れちゃう。そうすると操作もできる訳でしょう。ところがそんなところが青森の津軽以外でありますか。選挙管理委員会は、あなたが言ったようにまさしく公務員であるんです。仕事は、選挙管理委員長としてやるべきなのに、自分たちの派閥のために、異議申し立てをしてひっくり返す。だから、津軽選挙私はここで書いておきましてけれど、首長選挙で選挙管理委員会を巻き込み、自分の派閥で上手くやるじゃないですか、そんなことが考えられない。そこが津軽選挙の酷さです。他の自治体では考えられません。選挙管理委員会は指名ですのでそういうことが起こります。

選挙管理委員会と選挙をやるときのとは別です。管理委員会はずっとありますが、選挙長とかは、選挙の開票の時に決めていきます。

Q 3 社会的構成で社会村であって自然村では無いと言う話がありました。それはだいぶ昔であって、世代が変わってきていると思うが、それが文化として根付いているという捉え方か？

A そうです。僕は極論を言ったんですけど。今は必ずしもそうではありません。コミュニティもできて、仲良くやっているんですけど、選挙になるとあいつはどこそこのやつだと言うのが出てくるんですね。親父の代とか、お爺ちゃんの代からあいつが敵であったと言って付き合わないというのがあるんです。今でも酷いのは、相手陣営のやつがバスに乗っていると降りてしまう。それから食堂にいても行かない。それが津軽人の個性と言えば良いんですけど、ねじ曲がった根性が私の知っているのでは多いですね。人が良い思いをするとすぐに足を引っ張る。自分と同じレベルに落とす。新幹線誘致の時も足の引っ張り合いをしていた。だから他人が良くなるのは面白くないという曲がった根性はなかなか直らない。

Q 4 ニュータウンとか言うので自然にできあがったものでは無いものは都市部には多いですが、そこはまた違う感じなのですか？

A そこでは、経済的な行動だけでしょう。田んぼを作るとか、都会の場合は、皆んな職業とか社会階層が違うじゃないですか。だからその中でコミュニティを作るのも大変だけれども、今は、団地族とかでまとまっているけれど。昔の新田開発のときにそこでまとまれば良いんですけど水争い、つまり、米を育てるのに水をちゃんと管理するのが大変なので、それを争って絶対に許さないと。それが役所が言っても言うことを聞かないんですね。それが自然村ではなくて、行政村になった人の思いが未だあるんじゃないかと。それだけでは全部は説明できません。経済的な要因もあるだろうし、津軽人の気質もあると思う。私が社会的な構成体で説明をしたのは、二つだけで説明できないので、昔の古いことを言っているんですね。今だって誰も行かないですよ。ましてや江戸時代の初めなんて、誰がこんなところに行くんだって言うことで、3年間、飯も保証するし、米も家も建ててあげるということで来たわけです。ところが、皆んな違った人たちですね。金沢や北海道や色々な地域から来た人がいるから、皆んな国民性が違う。私は、極論で言っているんですけど。

Q 5 この間津軽選挙というのをテレビでやっているのを見ました。その時は三戸町で町会議員が沢山逮捕（15人）されて、議会を解散せよとか報道していました。その時の話では、青森県ではお願いするときは、お礼を持っていくことそれが礼儀になっているので、必ず頼み事する時は持っていくものそれが礼儀になっている。選挙も頼むときはお金を持っていくのが風習・生活慣習になっているのではないのかとTVでは言っていた？

A 津島さんの周りの人がやっているんですけど。今でもそれと同じでして、テレビで扱うんですけど、本当の意味での津軽選挙ではない。さっき言ったように、選挙管理委員会とか、選挙管理長を巻き込んで、不正な方法をしたというんですけど、今言った話は全国でも無いわけではないですよ。千葉県でも朝起きて1万円札があって、あの政治家に入れるとかあるんですけど。3つの事例を出したけれど、あんなのは、20件や30件あります。するとちょっとでも不正をやっていると、市長選や市議会選でも、なんでも津軽選挙と言って、マスコミは叩く。で本当に言うところではない。一旦作られたイメージは消えないじゃないですか。私も人相が悪いからよく言われますけれど、一旦作られたイメージで語られる。本当は、津軽選挙とは言えない。マスコミには分かり易いので。大阪でも飲み食いさせてくれるし、お金を握らせる人もいると思う。それは、あるんですけど、津軽選挙と一般に言って取り上げた。

Q 6 津軽選挙と関係ないんですけど、議長選挙でごたごた裏でドロドロしているんですけど、先生はそれは研究されているんですか？

また、国会議員になったら政権与党やったら大臣になりたい大臣病、議員（地方議員）になったら議長になりたい議長病といったもの。

A 青森の場合は、議長選挙の際にはお金が動いていませんね。何故かと言うと県議の場合は、定数を分かり易く50人として、すると自民党が30人、40人いるんです。だから当選4回になると副議長、6回になると議長になるという暗黙の了解があります。酷いのは任期が4年その内に3人の議長を作る。初に1年半やって後の2人が1年ずつやる。ところが、それは大阪でも同じです。とんでもない話でしょ。これが慣例だと今度の本で叩いていますけれど酷い話です。それから、今、衆議院の議長をしている大島というのがいますね。あの人は一時は総裁候補になったんです。ところが農林大臣の時に秘書が金の問題で自殺したんです。それで駄目になったんです。ただあの人は野党にも力があるし、実力がある。それから、大臣病の問題、この間のオリンピックの大臣みたいにでも、あの人は、本当は幸せで良い人、有権者は皆んな良い人だと言う。ただ喋るとき変な話を言うだけで、政治家として能力があります。ただあの人の話は本当の話。政治は本当の話をしちゃいけないと言うのをしていないだけで、よく言うでしょう、「前向きに検討する」と言うような永田町言葉。議会でもありますよ。

Q7 不正選挙への防止策として、首長の3選禁止というのが、書かれていますが、地方議会の議員が当選回数を重ねて力を持つことはないのか？

A 首長だけが多選禁止にしたって、一般の議員たちも勢力を持つてしまうのではないかと。ただ私は議員も2期8年、3期12年位で良いと思いますよ。憲法上問題なんですけど法律でやはり2期、3期で辞めるべきでしょう。職業としてやっているわけではなく、年の内3分の1しか仕事をしないから。国会議員、県会議員、市議会議員、皆んな同じですけど、ただ全部変な人じゃないというのはあります。真面目にやっている人も多いです。でも一人でも二人でも、この前にロシアに行った国会議員で変なことを言ったように一人でも出ると全部駄目になってしまう。ですから一旦できたイメージは変えられないから気をつけないといけませんね。

Q8 津軽での土壌的なことについては理解できるが、北海道でも同じ状況というのは、あるのでしょうか？

A 比較してみないと駄目なんですけれど、屯田兵とかの場合は、戦後政府が強力に進めてやったけれど、津軽の場合は江戸時代の初めなんですね。侍の時代の時にやった3年間、飯を保証して、賃金も全てやってということをやった訳ではない。屯田兵の場合はそういう恩恵がないと思って北海道の場合は調べて無いんですが。山梨県の場合は、そんなことはありませんね。屯田兵の場合は、はっきり言って私は分かりません。実態があったり、コミュニティについてはあったと思いますが。コミュニティを上から作ったので、青森県と構図は同じだと思いますが、詳しくは分かりません。申し訳ございません。

Q 9 津軽人の気質というのが分らないですが、大阪で青森県出身で保健師をされている方と仕事をしているのですが「役人に抵抗」と言うのがレジメに書いてあるが、役人に対しての文句は大阪の方が多いと思う。「争いごとを好み」とかも大阪でもあると思うが、気質ということについて客観的にそう言えるのかについて教えてください。

A 私は、若干強調をし過ぎた。そうでないと説得性が無いから。ただ今話は重要な話で疑いを持つこと。学問に対して、おかしいと関西人のことが気質が荒いということもありますが、学者はそこだけを強調をするから、津軽人はもっと大人しい方はいます。たまたま選挙の時にそういう方がいたということで、現在はあなたたちの世代では、そういう馬鹿なことをやる人達は少なくなりました。ただ私達の年代はだらしなくて、酒が飲めるのではないか、寿司が食えるのではないか、ウナギが食えるのではないかとやっているんですけど。若い人はもっと合理的に、大阪人、関西人の人でも選挙事情を話すときは、強調をして話さないといけない。これが全てではなく、一部分を取り上げたことです。

Q 10 おわりに「不正防止の処方箋」として、模擬選挙について挙げられています。私は国税（税務署）に勤めておまして、高校生向けに教育というのは、納税する社会人を育てていただけるものだという考えで、選挙管理委員会とコラボして模擬選挙をしています。模擬選挙での取組みを青森県ではされていますか？

A 知事にも言っているんですが、青森県ではやって無くて私が毎月帰っているのですが、市民大学というのをしています。あと高校生に対してアンケート調査して「何故選挙に行かないのか？」そして議員は、どう思うかについて定期的に調査しています。小学1年生にそう言うことをしたらおかしいと言うんですけど、幾つになったら良いんですか。中学生、高校生なら良いんですか。鉄は熱いうちに打てと言いますから、基礎教育をやらなければならない。実態を知らせるのが、教育者じゃないですか。学校では性善説で、社会では皆んな悪人ばかりだから、悪いことを教えないと。僕も大学で教育者として20年やってきましたけれど、良いことばかり言ってたら駄目だと、何が間違っているのかと言うことを一方的に話すだけでは良くないと言うことを話したいです。あなたの仕事は立派なことなので、それを全国に広げていくと。各地域でもやっていますけれど、アメリカみたいにフランクに議員が学校に言って、面白くないというのであれば私みたいに面白く話したら良いのであって、教師ももう少し落語家を真似て笑わせるくらいが必要ではないかと思います。18歳になってからだと困るでしょう。その為には、議員や親や学校の先生が教えないといけないと思います。ただ効果が出るのは難しいと思います。明るい選挙運動なんて何をやっているんですか。投票率向上のために何か方法があるのかと。私は投票率は無理に高くなくて良いと思います。価値観が多様化した現在では、政治以外に

楽しいことがあるんです。その中で、投票率が高いと政治が荒れて、危険な状況であると思います。

Q 1 1 津軽選挙なんですけど、法的に問題があるというのは分かるのですが、津軽で別にそのままやったらあかんのかと考えて、思想史的に考えたら、ホッブズの「万人のための万人のための闘争」と言うような状況があって、みんなが仲悪い状態であるところから、ロックに行って、憲法で縛るとかそこまでいかない。あと先生が言うのは、憲法で縛った上で、平等の上での自主防衛と言うことになると思います、そしてルソー論までいくと思います。けれどホッブズ論で言えば、とりあえずリヴァイアサンに権力を与えて、みんなが困らないということで考えれば、これは不味いことなのですか？

A そうすると、ロックでも色々な民主主義な考え方もいるでしょう。ところが社会を管理してやると言うのに、大統領制が良いのか、議員内閣制が良いのか、それだって問題になってくる。良いところと悪いところがある。その中で社会の発展に合わせて変えていかなければならない。

Q 1 2 社会の発展から言うと、それは制度と民度の問題であると思います。例えば、日本国中が自民党を支持するのは、ホッブズ論に近いと考えていて、そのレベルだからその程度ではないかと思うのですが。

A 教育がどのように行われるかが必要だと思いますが。民度というのは、上がるものでしょうか。上がらないと思う。政治学者だけれど社会の発展で人間が発達すると思ったけれど、じゃあ義務教育終わって社会化教育をしたら良くなるかと言うと、社会に出たときにちゃんとした人間になる。つまり驚かない良いことばかり教えない。悪いことを教えないといけない。小学校から大学まで全て性善説に立って教えている。社会は全ていじめじゃないですか。その中で政府は反発している。

Q 1 3 先生は、「津軽選挙」のことを半分位もう良いと思っているんじゃないですか？「争いごとを好み」、「他人の足を引っ張る」と言う津軽人の気質ということで面白くして話しておられるけれど、ちょっと位良いと思ってるのですか？

A ひよっとするのではなく、私もそこに入る。実際はこの前の市会議員選挙でも、県会議員選挙でも、やっぱり直ぐに飲んでしまう。出されたものを食べないと敵だと思われてしまう。金貰う人も、貰わないと敵だと思われてしまう。そこが人間の弱さだけけど、子供達にそういうことを教えられないでしょう。そこが問題、子供にそういうことを教えて良いのか、教育者としては駄目だと言わないと駄目でしょう。でも実態は、子供たちが社会

に出て、親は威張っているけれど、実際は俺たちと同じじゃないかとなってしまうのです。そうなるとうむ返しで何も変わらないんだけど、やはり政治学者の端くれとして、こういう制度がありますよと。それで民度が高まるとは思いません。だけれど一つひとつしていかなければなりません。

Q 1 4 この題材は、小学校の教材として使えるのではないかと話を聞いていて思いました。前提として、津軽選挙は悪いことだという前提にします。できる限り減らしていきたいという状況があります。事例がおかしいかもしれませんが「たばこの喫煙率を減らす方法」と言う策で小学校でたばこの害を教える。すると小学生が家に帰り、何故お父さんお母さんはタバコを吸っているのかと話すことを話して、親が禁煙するようになったというデータがあります。裏を返すと津軽選挙は、同じことでそれをやっている大人が何でやっているのかと子どもが言える。とすることを考えると現代史教育は必要だし、一世代の間にやっていけばと思う。

A 一つあなたに言いたいことは、親は子供の前では綺麗ごとを言うんです。こういうことを言うと青森だけの悪口を言って、大阪でも悪い奴がいて一方的だという人がいるんです。人間はそれに反応していくので。だから私が考えるのはどんな問題にしても表と裏があるし、光と影がある。その何処を見ていくのかということであると思う。選挙違反も無くならない。だからどの部分を見ていくのか、だけれども客観的なことを否定するとおかしくなるので、大学生になれば色々なことを教えたらいんだけど、小学生の間からあなたは非常に良いことを話されたけれど、やはり津軽選挙は駄目だし、実際お父さんは何をしているのかと、それは大人になったら分かることがある。実際いくら言っても、断れないことがある。それが本当の人間じゃないですか。それが本当の大人じゃないですか。その中で悩む。そこを認めた上での話です。

Q 1 5 得票率が下がっている中で、金権政治をやって効果があるんですか？

A 効果というと困っちゃうんですけど、効果があるから金権政治でお金を使う。青森でも県会議員選挙は1千万円必要であると言われる。何に使うのかコストだけではない。飲み食いもさせています。そういう意味での津軽選挙はあるんですけど。そういう風習は無くならないと思う。利益があるし、面白いし得するから動くのであって、人間は真面目なことばかりで生きてはいけません。それで一面を見てそれを全体であると把握しては駄目だと。お父さんとお母さんは、津軽選挙は駄目でお金を貰うのは悪いと言うのに、何故お金を貰うんだと。「人間はそういう者で君も、何時か分かる」実際にそう言うものでしょう。義理人情で断られないことがある。それが庶民の悲しさで人間というのは、そういう者ではないですか。完全に上手くいかない。だから、政治学は面白い。

IV 高野 恵亮 教授 講演の締め挨拶